

## 平成 30 年度アウトリーチ事業実施報告

永原 達哉, 山路 はるか\*

### 概要

平成 30 年度、公益財団法人大阪科学振興協会が実施したアウトリーチ事業「おでかけサイエンス」並びに館内で実施したイベント等について報告する。

#### 1. はじめに

今年度は9月から展示場が、そして12月からプラネタリウムが工事に入り科学館は完全休館となった。このような状況の中、普段では依頼がないような先から依頼があった。

#### 2. おでかけサイエンス

##### 2-1. イベントプロデュース

モバイルプラネタリウムやサイエンスショーなど複合的に実施するイベントを「イベントプロデュース」と呼んでいる。今年度はこの複合型イベントの依頼が多かった。

##### 1. 実施内容

例年依頼がある場所からは早くも10カ月前、遅くとも数カ月前から問い合わせがある。新しい年度のために提案する上で留意すること、それは前年度と同じで良いのか、それとも違う内容にするか、である。前年の集客率、アンケートの結果、また依頼者が望むイベントの運用システムなどを検討した上で企画書を提案する。

##### 2. 実施例その1

これは依頼者施設が持つほぼすべての会場と隣接するホールを使用した。ホールの収容人数は540人。前年度まではイベントの大トリの立場(15:00開始)でサイエンスショーを実施していた。しかしひとつ問題が生じた。このイベントの目玉プログラムのひとつでもあったモバイルプラネタリウムの実施する場所であった。前年度までは施設の正面玄関を入ったところにあるスペースを使っていた。ここは3階部分まで吹き抜けになっ

ており、広さはギリギリではあったが高さは十分であった。実施日は8月の猛暑日、ドーム内の温度はかなり高くなった、依頼者から小型扇風機を借りて実施したが、蒸し暑い状態が続いた。

そこで今年度のモバイルプラネタリウムの実施についてはホールの舞台を利用することにした。最後のサイエンスショーだけのために借りていたホールの有効利用にもなる。室温は問題なし、蒸し暑さは解消された。一石二鳥案として提案した。

上記案を迅速に運営するために、技術的かつ経験値の高いスタッフを配置する必要があった。それは最終回のモバイルプラネタリウム終了後、モバイルプラネタリウムからサイエンスショーへと短時間で舞台転換をする必要があったからである。



写真1-1 舞台上でのモバイルプラネタリウム

本番ではシミュレーション通りに作業は進み、問題はなかった。温度問題も解消された。

当日は3D宇宙映像体験、光の部屋、カプラ・ワークショップなどを実施した。

\*企画広報グループ



写真1-2 3D 宇宙映像体験の様様



写真1-3 光の部屋の実施模様

臨時休館中、展示場解説ボランティアのサイエンスガイドのみなさんは研修会に参加されていたが、折角の機会なので、展示場で実施している“プチ・サイエンスショー”を出張で行う「サイエンス縁日」という特別プログラムを提案した。



## 2-2. 臨時休館中での依頼

### 1. ジオ・カーニバル

大阪市立科学館が通常開館していれば、ジオ・カーニバルは科学館で実施するイベントである。しかし今年度は休館中で科学館が使用できないので長居自然史博物館で実施し、そこでモバイルプラネタリウムを実施することになった。

ジオ・カーニバルは毎年11月ごろに実施しているリピーターの多いイベントなので、関心の高い参加者が多かったために実施側にとってみればやりやすいイベントではあった。



写真2-1 モバイルプラネタリウムの実施風景

### 2. サイエンス縁日

臨時休館中だから実施ができた事業がこれである。



写真3-1 サイエンス縁日のチラシ(上:表、下:裏)

この特別プログラムの運用のためにサイエンスガイド・リーダーである森岡啓二氏、吉田潤氏、出山茂雄氏、そして谷坂明代氏に新しい実験器具“ホーククラフト・カーリング”や“偏光ステンドグラス”などを考案、作成していただいた。

から「本当にすてきな内容ですね」という評価をいただいた。

### 3. さいごに

サイエンス縁日が素晴らしいプログラムに仕上がりに、当日に高い評価をいただけたのも、通常の研修会の準備もあり忙しい中に協力していただいた、サイエンスガイドリーダーの森岡啓二氏、吉田潤氏、出山茂雄氏、

そして谷坂明代氏のおかげであり、当日参加していただき、従来の高い経験値を披露していただいたサイエンスガイドのみなさんのおかげである。またアウトリーチ事業で絶対に欠かせない各大学の学生スタッフにも、ここで感謝申し上げます。

これからもより多くの方に科学の楽しさを知っていただくために努力していきたいと思う。



写真3-2 ホバークラフト・カーリングの実施風景

“サイエンス縁日”というネーミングのとおり、“科学のお祭り”を演出するために、提灯サインを配置した。参加された方の反応は上々で、依頼いただいた担当者

永原 達哉，山路 はるか